

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 6 年 6 月 22 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471504302		
法人名	前田海苔 株式会社		
事業所名	グループホーム美の実		
所在地	広島県福山市水呑町2707-4 (電話) 084-956-0029		
自己評価作成日	令和6年5月10日	評価結果市町受理日	令和6年7月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3471504302-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和6年6月14日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

一人ひとりに寄り添い常に利用者の声に耳を傾け、安心して穏やかに暮らせるよう日々の生活を大切に、穏やかでゆとりのある時間を提供できるよう支援している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

運営理念「地域と共に家族のように寄り添い個々の意思を尊重し、和らげる生活を提供します」を提示し、一日の業務の始めと終わりに職員が個々に振り返りを行い自己研鑽している。今年度は各研修に課題を設定し、介護の資質の向上や職員のスキルアップを目標にしている。コロナ禍で中断となっている、町内会行事、地域サロンや百歳体操など、地域包括支援センターを通じて情報交換を行い、地域の住民として交流の場を広げる提案や工夫の検討をしている。運営推進会議を通常の開催に向けて構成員の出席の要請や事業継続計画（BCP）を作成し、災害時の対応策など検討している。利用者担当制により利用者、家族との信頼関係を築き、思いや要望を職員が情報共有し実践している。
--

自己評価	外部評価	項 目 (1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	常に理念を念頭に置き、日々のケアを行っている。終業時など理念に沿って今日一日行動できたか各個人で振り返るようになっている。	理念を各階フロアに提示し意識づけしている。毎日のケアの中で職員個々に振り返りを行い、自己研鑽に努めている。連絡ノートや医療ノートを活用し、申し送り時や毎月の職員会議にて情報共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の方への挨拶や町内行事には参加を心掛けている。秋の町内のお祭りには、ほぼ毎年事業所内に神輿を乗り入れ交流している。町内のサロン“鍛冶屋サロン”へはよく参加していた。	町内会に加入し回覧板や地元職員からの情報を得て、町内清掃活動に参加している。参加していた地域サロンや百歳体操は現在は中止となっているが、百歳体操は曜日を決めてビデオを見ながら事業所内で行っている。毎年地域の祭りに神輿が立ち寄り利用者と拝観し地域との交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の福祉会行事への参加をしている。職場内で培った経験を活かせるよう時々会話に注意を払い、常に行動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は3ヶ月に1回開催していたが昨今の情勢により開催できていない。今年度から開催する準備をしている。地域の民生委員や町内会の役員、地域包括、ご家族に声をかけ参加を要請し、時々状況を報告し意見を運営に活かしている。	運営推進会議は利用者状況、研修・行事・感染症対策など事業所の近況報告を書面を通じて行っている。利用者家族には「美の実通信」に同封し報告をしている。今年度は対面で開催予定で民生委員、町内会役員、地域包括支援センター、家族に参加要請をし、意見が反映に活かせるよう検討している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	昨今の情勢から思うように市町担当者との連絡はとれていないが、ポイントポイントで協力を要請した地域包括支援センターを利用している。	介護保険改正後の不明な点など電話での相談や窓口に出向き、助言や提案を頂き協力関係の構築に努めている。定期的に生活福祉課の来訪があり、生活の様子を報告している。	

自己評価	外部評価	項 目 (1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束や虐待についての外部研修をZOOMを使って受講するよう準備している。また、ホーム内での内部研修や職員間での話し合いにより常に身体拘束になっていないか考えながらケアをしている。身体拘束と利用者の安全を鑑みながら都度職員間で話し合いながら対応している。	3ヶ月毎に身体拘束適正化検討委員会を開催し、職員は自己チェックリストを活用して3ヶ月毎に振り返り検証をしている。研修を通じて身体拘束による弊害の知識を習得し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部研修はオンラインを使って研修を試み、オンライン研修に職員も慣れて、身体拘束や虐待についての外部研修を受講する予定である。常に相手の立場に立ち、想像力を発揮しながら、何が虐待に繋がるか、常に考えながらケアをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要に応じて活用できるよう内外の研修に参加し、情報の収集に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、項目ごとの説明を行い、ご家族・利用者様からの質問には納得頂けるように十分説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	相談窓口、意見箱などを設置、またご家族訪問時には意見交換できるよう努め、そのことを職員間でも議論できるようにしている。	利用者担当職員が日々のケアやコミュニケーションの中で意見や要望を把握している。家族からは面会や電話、担当者が家族に日頃の様子や毎月の「美の実通信」で状況を報告する事で信頼関係を築き、意見や要望の傾聴に努めている。	

自己評価	外部評価	項 目 (1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議等により職員の意見・要望・提案を聞く機会を設け迅速に対応している。	毎月の職員会議や日常の業務の中で意見や要望など聞いている。行事や企画の提案、希望休や日用品の購入など、簡単な事でも話しやすい関係が出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	常に代表者は、管理者・職員の意見に傾聴し納得して働けるよう環境の整備に努めている。また月1回の全体職員会議において、環境整備に関する時間を設け、その中で必要な備品設備等の要望があれば手配するよう努力している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修の呼びかけに努め、一人ひとりのスキルアップと質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他施設との交流はなかなかもていないが、できるだけ施設通信の相互交換などを通じて努力している。地域包括支援センター主催の“SFネット”などの参加もできる限りしている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	原則サービス導入前に訪問し、ご本人にアセスメントを行い本人の要望を汲み取り、安心を確保できるよう努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス導入前及び導入時には、十分にご家族との対話の時間を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス導入時に、管理者・看護師・ケアマネ・リーダーとご家族との対話の時間を設け、他のサービス利用も含めた支援の在り方を相談し、理解を求めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は日常の生活を支援する立場でありその中には介護するほう、されるほうの区別なく接するよう努めている。一線を保ちながら家族のような関係を築こうとしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族の来訪時などは努めて本人と家族と共に対話する時間を設け、現在の身体的・精神的状態の報告を毎月し理解を求めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人との関係には十分気を遣い、面会などには穏やかな時間が過ごせるよう配慮している。また昨今の状況で難しいがドライブ等施設外への活動時には努めて利用者の元いた住所や思い出の場所を通り、以前の生活を思い出して頂けるよう支援している。	生活歴や日頃の会話の中から人や場所などの関係性を把握している。電話や手紙での交流、訪問美容の方との顔なじみの関係やドライブで自宅周辺の思い出の場所を通るなど、馴染みの人や場との継続支援に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日中は出来るだけ皆の中で過ごす時間を提供し同じ話題で話せるような時間を設けるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後も来訪や電話等声掛けを行っている。とりわけ退所時には地域包括支援センターや医療機関の地域連携室・退院調整・市役所関係部署などと連携し対応に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に利用者本位のケアであるか自問自答をし、また職員間で話し合ったり、いつも検討している。また家族・ご本人とケアカンファレンスを設け常に利用者の思いを把握できるよう努めている。	入浴介助する時には親近感が生まれ利用者の思っている事や希望などを把握している。表出が難しい利用者は気の合う職員が話を聞いたり、生活歴や家族からの傾聴で思いを汲み取り、朝夕の申し送り時や職員会議で情報共有し取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居以前の生活歴を、ご家族から日々傾聴できるよう努めている。またちょっとした行為や言動に気を付け、気付きを話し合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	朝起きてから、夜の状態まで常に変わったこと、入浴の様子や食事の様子など、常に申し送り等で全職員が把握できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目 (1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居者一人ひとりに担当を設け、担当者がその人の月に起こった身体的状況や精神的状況の報告を家族に行っている。また定期的なカンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している。	利用者、家族の意向や要望を把握し、利用者担当者が日頃の様子や会話の中から思いを汲み取り、医療面や関係者の意見や提案が反映した介護計画を作成している。日々の様子や3ヶ月に1回のモニタリング、6ヶ月毎に見直しを行い、利用者本位の介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	時々様子を記録に残し、申し送り時に発表したり、申し送りノートに記入し、全職員で対応できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族の協力を得て、外出をお願いしたり、ユニットを超えた交流をしたり、本人のニーズにこたえられるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	身体状況により孤立しないためにも、庭の散歩や日光浴などリフレッシュできるように支援している。また地域の接骨院や整形外科等必要に応じ往診や受診し、かかりつけ医だけでなく本人にとって必要なリハビリができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	地域の中のかかりつけ医にて月に2回の定期往診や緊急時の緊急往診・相談や受診の受け入れ提携をしている。また訪問歯科診療やマッサージ等、利用者の要望により手配、対応している。	契約時、利用者、家族に説明を行い、希望のかかりつけ医を決めている。協力医による2週間に1回の訪問診療を行い、緊急時の24時間連携体制が整っている。他科受診は主治医から指示を頂き家族に連絡し、同行支援をしている。希望により訪問歯科、治療院の訪問支援をしている。	

自己評価	外部評価	項 目 (1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	現在看護職は、配置していないが利用者の様子に特変のある場合はかかりつけ医に相談できるようにしている。看護職が配置できれば、かかりつけ医との窓口となってもらい、よりスムーズな支援ができるようにしたい。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院側と何かあった時のために当施設の連絡先を伝えている。ご家族と協力し、利用者のケアが側面からでも出来るようにしている。また常に病院側の地域連携室等と退院調整を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居の際の説明はもちろん、終末期には逐一、家族、医療との連携、話し合いを持つようにしている。その中で施設のできるところを説明、理解し方針を共有できるように取り組んでいる。	契約時に重度化や終末期について事業所で出来る範囲の事を説明確認している。家族へは利用者の状態を細めに連絡を行い、医師との連携を深め指示や助言があれば早目に伝えるなど、利用者、家族の意向を共有し、思いを尊重した支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	日々、危機感をもち緊急マニュアルに従って迅速な対応ができるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	BCPの作成から、年2回の訓練や最低1年に1回の見直しなどができるようにしたい。自治体消防署には避難訓練の報告等を適切に行っていききたい。	年2回避難訓練をしている。訓練は緊急通報（新人職員が担当）避難誘導、初期消火など実施している。災害時の緊急時連絡網を作成している。同系列事業所と連携体制が築けている。BCP計画を作成し、日用品の確保、簡易トイレの設置、非常時に備えて実際に簡易トイレ体験をしてみるなど検討している。	

自己評価	外部評価	項 目（ 1F ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者一人ひとりの生きてきた歴史、生活観を重視し利用者一人ひとりにあった対応、声かけを行っているが、つついスピーチロックになりがちである。常に気を付け職員同士で声掛けできる環境を整えたい。	人として当たり前に出るよう接遇についての研修を行い知識を習得し、人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねる事のないよう、入浴や排泄時には個々に応じたさりげない声掛けや羞恥心にも配慮した対応をしている。スピーチロックなど気づきがあれば、職員間で注意、指導に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	基本的に利用者自身も受け身で過ごしがちになる。基本的に介護を受ける側という気持ちが根底にあることを理解しながら支援し、出来るだけ本人が自己決定出来るような環境にしたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員側の決まりや施設としてのルールを優先するわけではないが、日常生活の流れがどうしてもあるのでそれに沿って利用者と接し、時には話し合うこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その人の価値観、身だしなみはその人らしさであるので尊重するようにしている。職員の思い、当たり前を強要しないようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	現状では、利用者と調理などはできていないが、お盆を拭いたりなどの出来る範囲でのお手伝いはお願いするようにしている。	食事は手作りや配食業者の献立を提供している。食事形態や行事にはちらし寿司、チキンライス、おやつは今川焼や昔話を聞きながらプリンアラモードを食べるなど、食を楽しむ支援をしている。何気ない会話から出来る事、してきた事を把握し、テーブル拭きやお盆拭きなど生活リハビリをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	水分量や食事量が確保できるよう、状態 にあわせているような食事形態、水分摂取 方法を日々考え、実行している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	自立した利用者には声掛けを行い毎食後 の口腔ケアを行っている。また本人、ご 家族の納得の上、歯科医による定期ケア を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表により、排泄パターンを 把握しプライバシーに配慮した声掛けを 行っている。日中失禁のない利用者は布 パンツを使用、立位の取れる利用者はト イレに誘導し排泄を促している。	排泄チェック表で個々の排泄間隔を把握 している。表情や態度でさりげない声掛 けで誘導を行い、トイレで座位姿勢での 排泄支援をしている。運動や体操で便秘 予防や水分不足や尿路感染にも気をつけ ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分量と同じく便秘に関しても認知症周 辺症状を引き起こす要因となることを十 分理解したうえで医師や看護職の指導の もと投薬を行っている。また適度な運動 や食事形態に留意している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	認知症利用者の場合入浴日（曜日）を決 めている方がよい場合がある。常に曜日 を意識し何月何日か意識している。また 入浴嫌いな方にも工夫をし清潔を保つよ う支援している。	週2回の入浴を基本としている。気持ち 良く入浴してもらう為に利用者によっ ては声掛け方法に工夫をしたり、利用者の 体調によっては曜日の変更やシャワー浴 にするなど柔軟に対応している。温度変 化にも気を配り個々に応じた入浴支援を している。	

自己 評価	外部 評価	項 目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	ご本人の身体状況や排泄状況な ど、様子観察を行い、体調にあ わせて日中少し横になったり、 夜も同じ時間に臥床が出来る ように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	かかりつけ医からの指示や処方 箋から理解を深めている。受診 ノートや服薬チェック表を用い るなどしている。また医師・看 護師の指導のもと日にち別に 仕分けを担当が行うことによ って責任と理解を深めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	何気ない日常の会話からその方 の歴史を感じ、そこから支援の 方法がないか観察している。食 器洗いや洗濯干し、新聞折り などを無理なく手伝っていただ ける様声掛けを行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	可能な限り本人の希望に沿って 近隣の散歩やドライブに出掛け られるようにしている。またご 家族にもご協力いただき自由な 時間を過ごせるように支援して いる。	天気の良い日は近隣の散歩や 庭に出て、日光浴や外気浴で陽 射しや風で四季を感じてもら う支援や出来る範囲でドライ ブや家族の協力のもとで外出 を楽しむ支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように 支援している。	お金を自由に持てることが社会 人としての尊厳を守ることに 繋がることは職員一同理解を している。そのうえでご家族 とも相談の上、持てる金額や 方法を逐次相談している。		

自己評価	外部評価	項 目 (1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望により、電話などは自由に掛けられるようにしている。その場合も、ご家族の意向を十分話し合えるようにしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	トイレなどは特に重視しやわらかい電球色の光にしている。大きな物音や強い光には注意している。無駄な広さ、不快な室温には十分注意している。	壁面に作品の展示や曜日が分かりやすいよう手作りの日めくりカレンダーが飾ってある。感染症対策で消毒チェック表でフロアー清掃、トイレ掃除、ゴミ箱チェックなどしている。ストレスを感じないよう日常的な会話や塗り絵、ソファに座ってテレビ鑑賞など、思い思いのスタイルで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間には、テレビやソファを置きいつでもくつろげる様にしている。歌の好きな方同志、歌本を見て好きな歌を歌ったり、ユニット間の行き来や庭に出てベンチでくつろいだりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の希望により居室に置くものはご本人の趣向に合わせている。ご家族と十分相談しながら居心地の良い空間を提供できるようにしている。	エアコン、ベッド、タンスが設置してある。タンスは地震の際、倒れないようにつかえ棒を設置し災害対策をしている。馴染みの物や大切にしている物を持参している。鏡台や昔の写真、敬老の日に貰ったお祝いの飾りが飾ってある。自宅と変わらないよう思い思い居心地よく過ごせるよう配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	共有空間には、いつでも手すりを利用して足踏み運動が出来たり、トイレや居室の入り口には名前をだし、夜は安全が保てるように利用者様の導線を考え、障害物が無いように工夫している。		

V アウトカム項目(1F) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項 目 (2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	常に理念を念頭に置き、日々のケアをおこなっている。終業時など理念に沿って今日一日行動できたか各個人で振り返るようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の方への挨拶や町内行事には参加を心掛けている。秋の町内のお祭りには、ほぼ毎年事業所内に神輿を乗り入れ交流している。町内のサロン”鍛冶屋サロン”へはよく参加していた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の福祉会行事への参加をしている。職場内で培った経験を活かせるよう時々、の会話に注意を払い、常に行動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は3ヶ月に1回開催していたが昨今の情勢により開催できていなかったが今年度から開催する準備をしている。、地域の民生委員や町内会の役員、地域包括、ご家族に声をかけ参加を要請し、時々、状況を報告し意見を運営に活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	昨今の情勢から思うように市町担当者との連絡はとれていないが、ポイントポイントで協力を要請し足り地域包括を利用している。		

自己評価	外部評価	項 目 (2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束や虐待についての外部研修をZOOMを使って受講するよう準備している。また、ホーム内での内部研修や職員間での話し合いにより常に身体拘束になっていないか考えながらケアをしている。身体拘束と利用者の安全を鑑みながら都度職員間で話し合いながら対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部研修はZOOMを使って研修を試み、オンライン研修に職員も慣れて、身体拘束や虐待についての外部研修を受講する予定である。常の相手の立場に立ち、想像力を発揮しながら、何が虐待に繋がるか、常に考えながらケアをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要に応じて活用できるよう内外の研修に参加し、情報の収集に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、項目ごとの説明をおこない、ご家族・利用者様からの質問には納得頂けるように十分説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	相談窓口、意見箱などを設置、またご家族訪問時には意見交換できるよう努め、そのことを職員間でも議論できるようにしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議等により職員の意見・要望・提案を聞く機会を設け迅速に対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	常に代表者は、管理者・職員の意見に傾聴し納得して働けるよう環境の整備に努めている。また月1回の全体職員会議において、環境整備に関する時間を設け、その中で必要な備品設備等の要望あれば手配するよう努力している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修の呼びかけに努め、一人ひとりのスキルアップと質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他施設との交流はなかなかもてていないが、できるだけ施設通信の相互交換などを通じて努力している。地域包括主催の”SFネット”などの参加もできる限りしている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	原則サービス導入前に訪問し、ご本人にアセスメントを行い本人の要望を汲み取り、安心を確保できるようつとめている。		

自己評価	外部評価	項 目 (2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス導入前及び導入時には、十分にご家族との対話の時間を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス導入時に、管理者・看護師・ケアマネ・リーダーとご家族との対話の時間を設け、他のサービス利用も含めた支援の在り方を相談し、理解を求めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は日常の生活を支援する立場でありその中には介護するほう、されるほうの区別なく接するよう努めている。一線を保ちながら家族のような関係を築こうとしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族の来訪時などは努めて本人と家族と共に対話する時間を設け、現在の身体的・精神的状態の報告を毎月し理解を求めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人との関係には十分気を遣い、面会などには穏やかな時間が過ごせるよう配慮している。また昨今の状況で難しいがドライブ等施設外への活動時には努めて利用者の元いた住所や思い出の場所を通り、以前の生活を思い出して頂けるよう支援している。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日中は出来るだけ皆の中で過ごす時間を提供し同じ話題で話せるような時間を設けるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後も来訪や電話等声掛けをおこなっている。とりわけ退所時には地域包括センターや医療機関の地域連携室・退院調整・市役所関係部署などと連携し対応に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に利用者本位のケアであるか自問自答をし、また職員間で話し合ったりしていつも検討している。また家族・ご本人とケアカンファレンスを設け常に利用者の思いを把握できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居以前の生活歴を、ご家族から日々傾聴できるよう努めている。またちょっとした行為や言動に気を付け、気づきを話し合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	朝起きてから、夜の状態まで常に変ったこと、入浴の様子や食事の様子など、常に申し送り等で全職員が把握できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目 (2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居者一人ひとりに担当を設け、担当者がその人の月に起こった身体的状況や精神的状況の報告を家族に行っている。また定期的なカンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	時々の様子を記録に残し、申し送り時に発表したり、申し送りノートに記入し、全職員で対応できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族の協力を得て、外出をお願いしたり、ユニットを超えた交流をしたりして本人のニーズにこたえられるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	身体状況により孤立しないためにも、庭の散歩や日光浴などリフレッシュできるように支援している。また地域の接骨院や整形外科等必要に応じ往診や受診しかかりつけ医だけでなく本人にとって必要なりハビリができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	地域の中のかかりつけ医にて月に2回の定期往診や緊急時の緊急往診・相談や受診の受け入れ提携をしている。また訪問歯科診療やせつじょツインによるマッサージ等、利用者の要望により手配、対応している。		

自己評価	外部評価	項 目 (2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	現在看護職は、配置していないが利用者の様子に特変のある場合はかかりつけ医に相談できるようにしている。看護職が配置できれば、かかりつけ医との窓口となってもらい、よりスムーズな支援ができるようにしたい。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院側と何かあった時の連絡先の当施設の連絡先を連絡している。ご家族と協力し、利用者のケアが側面からでも出来るようにしている。また常に病院側の地域連携室等と退院調整を行ったりしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居の際の説明はもちろん、終末期には逐一、家族、医療との連携、話し合いを持つようにしている。その中で施設のできるところを説明、理解し方針を共有できるように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	日々、危機感をもち緊急マニュアルに従って迅速な対応ができるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	BCPの作成から、年2回の訓練や最低1年に1回の見直しなどができるようにしたい。自治体消防署には避難訓練の報告等を適切に行っていきたい。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ 2F ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者一人ひとりの生きてきた歴史、生活観を重視し利用者一人ひとりにあった対応、声かけをおこなっているが、つついスピーチロックになりがちである。常に気を付け職員同士で声掛けできる環境を整えたい。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	基本的に利用者自身も受け身で過ごしがちなになる。基本的に介護を受ける側という気持ちが根底にあることを理解しながら支援し、出来るだけ本人が自己決定出来るような環境にしたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員側の決まりや施設としてのルールを優先するわけではないが、日常生活の流れがどうしてもあるのでそれに沿って利用者と接し、時には話し合うこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その人の価値観、身だしなみはその人らしさであるので尊重するようにしている。職員の思い、当たり前を強要しないようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	現状では、利用者と調理などはできていないが、お盆を拭いたりなどの出来る範囲でのお手伝いはお願いするようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目 (2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	水分量や食事量が確保できるよう、状態 にあわせているような食事形態、水分摂取 方法を日々考え、実行している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	自立した利用者には声掛けを行い毎食後 の口腔ケアをおこなっている。また本 人、ご家族の納得の上、歯科医による定 期ケアをおこなっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表により、排泄パターンを 把握しプライバシーに配慮した声掛けを 行っている。日中失禁のない利用者は布 パンツを使用、立位の取れる利用者はト イレに誘導し排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分量と同じく便秘に関しても認知症周 辺症状を引き起こす要因となることを十 分理解したうえで医師や看護職の指導の もと投薬をおこなっている。また適度な 運動や食事形態に留意している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	認知症利用者の場合入浴日（曜日）を決 めている方が良い場合がある。常に曜日 を意識し何月何日か意識している。また 入浴嫌いな方にも工夫をし清潔を保つよ う支援している。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	ご本人の身体状況や排泄状況な ど、様子観察を行い、体調にあ わせて日中少し横になったり、 夜も同じ時間に臥床が出来る ように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	かかりつけ医からの指示や処方 箋から理解を深めている。受診 ノートや服薬チェック表を用い るなどしている。また医師・看 護師の指導のもと日にち別に 仕分けを担当が行うことによ って責任と理解を深めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	何気ない日常の会話からその方 の歴史を感じ、そこから支援の 方法がないか観察している。食 器洗いや洗濯干し、新聞折り などを無理なく手伝っていただ ける様声掛けを行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	可能な限り本人の希望に沿って 近隣の散歩やドライブに出掛け られるようにしている。またご 家族にもご協力いただき自由な 時間を過ごせるように支援して いる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひ とりの希望や力に応じて、お金 を所持したり使えるように支 援している。	お金を自由に持てることが社会 人としての尊厳を守ることに繋 がることは職員一同理解をして いる。そのうえでご家族とも 相談の上、持てる金額や方法を 逐次相談している。		

自己評価	外部評価	項 目 (2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望により、電話などは自由に掛けられるようにしている。その場合も、ご家族の意向を十分話し合えるようにしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	トイレなどは特に重視しやわらかい電球色の光にしたりしている。大きな物音や強い光には注意している。無駄な広さ、不快な室温には十分注意している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間には、テレビやソファを置きいつでもくつろげる様にしている。歌の好きな方同志、歌本を見て好きな歌を歌ったり、ユニット間の行き来や庭に出てベンチでくつろいだりとしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の希望により居室に置くものはご本人の趣向に合わせている。ご家族と十分相談しながら居心地の良い空間を提供できるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	共有空間には、いつでも手すりを利用して足踏み運動が出来たり、トイレや居室の入り口には名前をだし、夜は安全が保てるように利用者様の導線を考え、障害物が無いように工夫している。		

V アウトカム項目(2F) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム美の実

作成日 令和6年7月11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	コロナ禍で計画通り行えていなかった研修を計画通り受講する。	計画通り行えていなかった研修を計画通り受講する。	計画書の作成・ZOOMやユーチューブなど利用し、内部でも研修する。	3か月
2	2	コロナ禍で”サロン”など外部行事に参加できなかった。	月に1回は町内開催の”サロン”に参加する。	参加できる職員を担当者としてシフト作成時点で指名し、時候の良くなった頃から参加する。	3か月
3	4	コロナ禍で予定していた運営推進委員会を開催できていない。	作成しているが年度初めに計画した通りの運営推進会議の開催をする。	開催月のシフトで職員に周知し、全員で取り組めるようにする。	1か月
4	13	BCP作成により備蓄品が揃えていない。	毎月予算を組んで備蓄の購入をする。	毎月予算を組んで備蓄の購入をする。	随時
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。